



一般社団法人 日本庭園協会

東京都新宿区西早稲田1-6-3 フェリオ西早稲田301

〒169-0051 TEL:03-3204-0595 (FAX兼用)

E-mail : gsj20@m7.dion.ne.jp URL : <http://nitteikyou.org/>

編集者：広報委員長代行・小沼 康子

委員・内田 均、鈴木貴博、豊藏 均

題字：故・上原 敬二

発行日：2020(令和2)年1月31日



明治後期生まれの弘前の盛美館は旧古河邸似で、外見洋風、内装和風建築だが、庭園は地元に伝わる大石武学流様式でまとめたため現代としての明治時代のユニークな雰囲気を生んで面白い（撮影：龍居竹之介 2006.5.25）

時の今に生きる人と庭に寄せる

龍居竹之介

平成から令和に元号は改まった。といつて世の中がガラリと改まるわけではない。庭も同じである。これまでの延長線の上を穏やかに歩み続けている。人は新元号の下、幸多き世となれと思いを寄せたりするが、庭は黙して当然何も語りなどはしない。

でも人と世間は、時によりすまいや庭など生活そのものも時代の推移に従わせないと気がすまないらしい。そうしてそれを新時代到来の証明としようと思いつ込むかのようだ。その烈風が一番強く吹き荒れたのが、いまからほぼ一世紀半前。いわゆる明治維新と呼ぶ驚天動地の大改革が行われたときであった。学制、徵兵令、地租改正、そして秩禄処分がその目玉政策といわれるこの政変、市民が具体的に眼にしたのは、徳川幕府が倒れ天皇の親政となり、皇居と名を改めた江戸城の主となつたこと、大名による藩政統治が解消されて大江戸の七割方の土地を占めていた武家屋敷が壊滅する惨状などなど。

一方、外国に門戸を開いた国策は、維新前の攘夷強行論とは裏腹に、当初は旧大名、新華族などいわゆる上流階級を中心に、以後は急速かつ広範囲に生活の西欧化に邁進した。ある建築史家が「東京には百年前の建築が一戸もない」と驚愕慨嘆したほどの大変貌である。

その百年は建築も摸索に打ちすぎた期間ともいいたが、私は庭もその道連れにされたと思う。風土の特質をなおざりにした建築にひきずられるままだった庭は、この辺でぜひ眼をさましたいなア。

(名誉会長)

新年のご挨拶

会長 高橋 康夫

高木枝打ち剪定講習会

令和元年度 伝統庭園技塾 宮城県大和町 東日本大震災復興記念庭園

明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては新しい年号「令和」最初の元旦を迎えることと心よりお慶び申しあげます。

昨年は、日本庭園協会にとりまして101年目の第一歩を踏み出した年でもあり、支部・本部が一体となつて新たな庭園協会像を目指して、様々な活動を展開して頂き、新しい試みもスタートしています。

現在、高所作業車が入らない高木の剪定及び伐採ができる技術者の不足が全国的に大きな問題となつています。そこで伝統庭園技塾において、「高木枝打ち剪定技術」の習得に向けた講習会を開始し、一定の技術を習得すれば日本庭園協会として技術力を認定する制度をつくりました。

また、昭和を代表する巨匠たちで雪吊り風景



雪吊り風景

ある飯田十基・岩城亘太郎・斎藤勝雄・小形研三先生方の功績が忘れ去られようとしている昨今、先達たち

の庭園観や作庭現場を再確認することで、現代における庭の課題解決への手掛かりとしたいと連続講座を企画しました。

さて、年も押し詰まつた時期に兼六園を訪ねる機会がありました。名園の条件である六勝すなわち、「宏大」「幽邃」「人力」「蒼古」「水泉」「眺望」を兼ね備えている兼六園ですが、この時期、ひときわ目を引くのが雪吊りです。雪害から樹木を守るために仕掛けを、長い年月をかけて庭師たちの美意識が「実用」から「美」へと変化させたものです。日々の庭仕事が庭を大きく変えることもできるのだと実感しました。作庭後の庭が名園になるか否かは庭師たちの美意識にかかるのです。

今年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、世界各国から多くの来客が見込まれ、日本文化を代表する庭園にも注目が集まります。あらゆる機会に日本の庭園の魅力を伝える活動を皆様と共に展開してまいりましょう。

伝統庭園技塾 廣瀬慶寛

平成から令和に年号が変わり最初の企画として（社）日本庭園協会本部と宮城県支部が共催で、東日本大震災復興記念庭園を会場として高木枝打ち剪定講習会を行いました。

初年度は、初級編として「基本的なロープワーク」を主に習得し、安全部を第一とした作業であることから「命の大切さ」を学ぶという、全4回の講習会としました。

実技の講師は、宮城県支部会員の吉田愛輝氏です。吉田氏は、高木剪定における特殊な技術で20年以上の実績があり、県内外で活躍されています。また、座学では、東京農業大学の内田均教授による「一般住宅における高木枝打ち剪定の必要性」に関する講義を受けました。

令和元年度の高木枝打ち剪定講習会の日程は左記の通りでした。

1回目 平成31年 4月5日～7日	2回目 令和元年 6月15日～16日	3回目 令和元年 9月20日～22日	4回目 令和元年 11月16日～17日
全日程を吉田氏が実技指導を行つ			

宮城県大和町 東日本大震災復興記念庭園



第3回の中級編講習

した。しかし、ロープを使つた高所での作業技術はこれからが本題です。初年度はやつと登ること、降りること、とりあえず樹上でノコギリが使えることという初歩の状態ですから、まだまだ先があるということです。

2020年、今年は更なる飛躍にワクワクする年となるでしょう。自身の営業品目に新たなアイテムが加わり、現代社会の困りごと解消に貢献できる日が近くなるでしょう。

日々の造園技術研鑽を怠ることなく努力し、この技術を加え、更なる向上を目指し自分のものにするため、共に励みましょう。今回の講習に際し、高橋康夫会長、廣瀬慶寛塾長、菊地正樹宮城県支部長、竹田利光氏ほか、多くの方々の協力に感謝します。そして、更なるバックアップをお願いします。

さて、そんな訳で始まった講習会。私は講師の経験など無い職人です。資料作りは自分の数々の失敗経験とこれまでこなしてきた仕事のキャリアから導くとこなしてきた仕事のキャリアから導くとした。自身の経験から「命の大切さ」を基本柱とし、その上に技術が積み上がついくことを繰り返し伝えることが重要であると考えました。「命」を真剣に考え、大切に思う行動ができれば自分自身はもちろん仲間や関わりのある人々、そして、自分達が使う道具今まで心が行き届くと考えています。このことを基本に実施した全4回の講習会に参加した受講生の熱い思いに感激しません。

高木枝打ち剪定講習会に参加して

竹田 利光

令和元年度に企画された高木枝打ち剪定講習会を全4回受講しました。

実際に自分のお客様のほとんどは新しい住宅地であって、大木の伐採や枝おろしの話はあまりなく、あつても過去に数える程度でした。そのような少ない仕事の中でも外柵を傷つけたり、木から落ちそなになつたり良い思い出がありません



吉田愛輝講師

ロープによる高木枝打ち剪定技術の講習会の企画にあたつて講師をと依頼されましたが、当初は大変迷いました。人類が宇宙旅行をし、全自动運転車が走り、AIが活躍しようとする時代に、ロープを枝に掛けて自力で木に登り剪定仕事をしようとすることは、3K（きつい、汚い、危険）、4K（+格好悪い）どころかオールKの仕事なので心配になりました。しかし、放置された庭園の管理のため多くの人達に技術を伝えてほしいという主催者の熱意に心を打たれました。現代社会において高所作業車などの重機が使えず、しかし、何とかし

を感じたこと

吉田 愛輝



初級編指導（ランヤード）

1回目 令和2年 4月16日～19日
2回目 令和2年 10月15日～18日
皆様の参加をお待ちしています。
（常務理事 伝統庭園技塾 塾長）

高木枝打ち剪定講習会を通して



中級編指導（ダブルロープシステムによる昇降技術）

感じたこと

吉田 愛輝

ロープによる高木枝打ち剪定技術の講習会の企画にあたつて講師をと依頼されましたが、当初は大変迷いました。人類が宇宙旅行をし、全自动運転車が走り、AIが活躍しようとする時代に、ロープを枝に掛けて自力で木に登り剪定仕事をしようとすることは、3K（きつい、汚い、危険）、4K（+格好悪い）どころかオールKの仕事なので心配になりました。しかし、放置された庭園の管理のため多くの人達に技術を伝えてほしいという主催者の熱意に心を打たれました。現代社会において高所作業車などの重機が使えず、しかし、何とかし

を感じたこと

吉田 愛輝

を基本柱とし、その上に技術が積み上がりいくことを繰り返し伝えることが重要であると考えました。「命」を真剣に考え、大切に思う行動ができれば自分自身はもちろん仲間や関わりのある人々、そして、自分達が使う道具今まで心が行き届くと考えています。このことを基本に実施した全4回の講習会に参加した受講生の熱い思いに感激しました。

吉田 愛輝

高木枝打ち剪定講習会に参加して

竹田 利光

令和元年度に企画された高木枝打ち剪定講習会を全4回受講しました。

実際に自分のお客様のほとんどは新しい住宅地であって、大木の伐採や枝おろしの話はあまりなく、あつても過去に数える程度でした。そのような少ない仕事の中でも外柵を傷つけたり、木から落ちそなになつたり良い思い出がありません

した。修業時代にも全く経験がなく、形だけの安全帯を着け気合だけで幹のぼりをしていました。落ちたら死ぬかもしれない、正直やりたくない仕事でした。それだけに話があつても聞かないようにしてきました。

第1回目の講習会は、座学による安全第一の話、実技はロープワークが大半で、実際に木に登り、枝を降ろすという作業は行いませんでした。吉田愛輝先生、廣瀬慶寛塾長が練り返し言ふことは、「命を守る」ということでした。そのためには必要なのが、基本のロープワークです。木登りに自信があった私ですが、ロープを使って登ることは初めての経験で、気合で登つたほうが早いだらうとも思いました。

しかし、足場になる枝がないときや超なるバッカアップをお願いします。

受講者は日頃行つている剪定のスタッフが変わったことにより、当協会より吉田氏に講師資格認定証を授与しました。なお、令和元年度参加者20名の内、厳正なる審査の結果、初級・基礎編修了証を7名が取得しました。

全4回の講習会は毎回大好評で、受講者は日頃行つている剪定のスタッフが変わったことにより、当協会より吉田氏に講師資格認定証を授与しました。なお、令和元年度参加者20名の内、厳正なる審査の結果、初級・基礎編修了証を7名が取得しました。

第3回の中級編講習



第3回の中級編講習

した。しかし、ロープを使つた高所での作業技術はこれからが本題です。初年度はやつと登ること、降りること、とりあえず樹上でノコギリが使えることといふ初歩の状態ですから、まだまだ先があるということです。

日々の造園技術研鑽を怠ることなく努力し、この技術を加え、更なる向上を目指し自分のものにするため、共に励みましょう。今回の講習に際し、高橋康夫会長、廣瀬慶寛塾長、菊地正樹宮城県支部長、竹田利光氏ほか、多くの方々の協力に感謝します。そして、更なるバックアップをお願いします。

さて、そんな訳で始まった講習会。

私は講師の経験など無い職人です。

資料作りは自分の数々の失敗経験とこれまでこなしてきた仕事のキャリアから導くとこなしてきた仕事のキャリアから導くとした。自身の経験から「命の大切さ」を基本柱とし、その上に技術が積み上

がついくことを繰り返し伝えることが重要であると考えました。「命」を真

剣に考え、大切に思う行動ができれば自分自身はもちろん仲間や関わりのある人々、そして、自分達が使う道具今まで心が行き届くと考えています。このことを基本に実施した全4回の講習会に参加した受講生の熱い思いに感激しました。

吉田 愛輝

高木枝打ち剪定講習会に参加して

竹田 利光

令和元年度に企画された高木枝打ち剪定講習会を全4回受講しました。

実際に自分のお客様のほとんどは新しい住宅地であって、大木の伐採や枝おろしの話はあまりなく、あつても過去に数える程度でした。そのような少ない仕事の中でも外柵を傷つけたり、木から落ちそなになつたり良い思い出がありません

した。しかし、足場になる枝がないときや超なるバッカアップをお願いします。

吉田愛輝先生、廣瀬慶寛塾長が練り返し言ふことは、「命を守る」ということでした。そのためには必要なのが、基本のロープワークです。木登りに自信があった私ですが、ロープを使って登ることは初めての経験で、気合で登つたほうが早いだらうとも思いました。

しかし、足場になる枝がないときや超なるバッカアップをお願いします。

受講者は日頃行つている剪定のスタッフが変わったことにより、当協会より吉田氏に講師資格認定証を授与しました。なお、令和元年度参加者20名の内、厳正なる審査の結果、初級・基礎編修了証を7名が取得しました。

全4回の講習会は毎回大好評で、受講者は日頃行つている剪定のスタッフが変わったことにより、当協会より吉田氏に講師資格認定証を授与しました。なお、令和元年度参加者20名の内、厳正なる審査の結果、初級・基礎編修了証を7名が取得しました。

第3回の中級編講習



第3回の中級編講習

した。しかし、ロープを使つた高所での作業技術はこれからが本題です。初年度はやつと登ること、降りること、とりあえず樹上でノコギリが使えることといふ初歩の状態ですから、まだまだ先があるということです。

日々の造園技術研鑽を怠ることなく努力し、この技術を加え、更なる向上を目指し自分のものにするため、共に励みましょう。今回の講習に際し、高橋康夫会長、廣瀬慶寛塾長、菊地正樹宮城県支部長、竹田利光氏ほか、多くの方々の協力に感謝します。そして、更なるバックアップをお願いします。

さて、そんな訳で始まった講習会。

私は講師の経験など無い職人です。

資料作りは自分の数々の失敗経験とこれまでこなしてきた仕事のキャリアから導くとこなしてきた仕事のキャリアから導くとした。自身の経験から「命の大切さ」を基本柱とし、その上に技術が積み上

がついくことを繰り返し伝えることが重要であると考えました。「命」を真

剣に考え、大切に思う行動ができれば自分自身はもちろん仲間や関わりのある人々、そして、自分達が使う道具今まで心が行き届くと考えています。このことを基本に実施した全4回の講習会に参加した受講生の熱い思いに感激しました。

吉田 愛輝

高木枝打ち剪定講習会に参加して

竹田 利光

令和元年度に企画された高木枝打ち剪定講習会を全4回受講しました。

実際に自分のお客様のほとんどは新しい住宅地であって、大木の伐採や枝おろしの話はあまりなく、あつても過去に数える程度でした。そのような少ない仕事の中でも外柵を傷つけたり、木から落ちそなになつたり良い思い出がありません

した。しかし、足場になる枝がないときや超なるバッカアップをお願いします。

吉田愛輝先生、廣瀬慶寛塾長が練り返し言ふことは、「命を守る」ということでした。そのためには必要なのが、基本のロープワークです。木登りに自信があった私ですが、ロープを使って登ることは初めての経験で、気合で登つたほうが早いだらうとも思いました。

しかし、足場になる枝がないときや超なるバッカアップをお願いします。

受講者は日頃行つている剪定のスタッフが変わったことにより、当協会より吉田氏に講師資格認定証を授与しました。なお、令和元年度参加者20名の内、厳正なる審査の結果、初級・基礎編修了証を7名が取得しました。

全4回の講習会は毎回大好評で、受講者は日頃行つている剪定のスタッフが変わったことにより、当協会より吉田氏に講師資格認定証を授与しました。なお、令和元年度参加者20名の内、厳正なる審査の結果、初級・基礎編修了証を7名が取得しました。

第3回の中級編講習



第3回の中級編講習

した

高木になった場合、正しいロープワーカーができれば安全に作業ができます。危険な仕事は人に任せずに自分でやつてきたところがあつたからです。

いろいろな道具がある中でこれはと思ったのが「ランヤード」というハーネスに取り付ける2点の支持ロープです。

長さの調節が容易で、これを幹や枝の2点に掛けると体が固定され両手で作業できるのです。今までの気合のみの登り方では攻められなかつた枝先近くに体を持つていくことができるのです。吉田先生は、「ランヤードを使うと手入れが変わる」と話していましたが、「回り大きく柔らかい手入れができるようになりました。

全4回の講習会はロープワークが大半でした。それだけ命を守ることが基本であると何度も考えさせられました。

最新の道具や現在の法令に適したハーネスや保護具の話を現在進行形で講義して頂けたことも非常に良かったです。夕食後も先生や塾長を囲んで、夜遅くまで盛り上りました。令和2年度は実践編へとレベルアップした講習会が予定されているので楽しみです。初級編も同時に進めることなので皆さまも是非参加されてはいかがでしょうか。

(正会員 宮城県支部)



名誉会長 龍居竹之介氏

【岩城亘太郎プロフィール】
京都生まれ。植治で番頭を務め、東京進出し岩城庭園研究所（現岩城）を設立。庭匠から作庭家、造園家へと社会から高い評価を受ける。常務理事就任後、伝統庭園実技研修会（埼玉県武蔵丘陵森林公园）を開催。後に「伝統庭園技術塾」と改め、塾長として第8回まで開塾し、次代を担う後進育成にと植治伝来の伝統技法を伝授。第9代理事長として、『庭園協会ニュース』第1号を発行。主な作品は、迎賓館赤坂離宮和風別館（庭園、平櫛田中邸（現小平市平櫛田中彫刻美術館）庭園、古峯神社ほか多数）。



設計部長 荒川淳良氏

（日本庭園協会主催）
『現代日本庭園の巨匠たちの庭を訪ねる 第1回 岩城亘太郎～その仕事を見る・知る・語る～』
日時…令和元年12月7日（土）
13時30分～15時30分
場所…TKP麹町駅前会議室及び
ホテルニューオータニ日本庭園
講師…日本庭園協会
名誉会長 龍居竹之介

●龍城亘太郎作品現地見学会
●龍居先生講義内容
参加者数…48名
株式会社 岩城
設計部長 荒川淳良

岩城亘太郎の甥である岩城亘太郎。その孫に当たる岩城隆社長には、家族として過ごした素顔の岩城亘太郎について語つて頂いた。

また、岩城亘太郎が残した作品についても、社員の教育についても思ひ出とともにお話しして頂いた。

●岩城隆社長の講義内容
（日本庭園協会主催）
『現代日本庭園の巨匠たちの庭を訪ねる 第1回 岩城亘太郎～その仕事を見る・知る・語る～』
日時…令和元年12月7日（土）
13時30分～15時30分
場所…TKP麹町駅前会議室及び
ホテルニューオータニ日本庭園
講師…日本庭園協会
名誉会長 龍居竹之介

岩城治兵衛の甥である岩城亘太郎。その孫に当たる岩城隆社長には、家族として過ごした素顔の岩城亘太郎について語つて頂いた。

また、岩城亘太郎が残した作品についても、社員の教育についても思ひ出とともにお話しして頂いた。

●岩城亘太郎作品現地見学会
●龍居先生講義内容
参加者数…48名
株式会社 岩城
設計部長 荒川淳良

岩城亘太郎の京都時代から東京に進出した経緯や作品の解説をして頂くと共に、耳に残った岩城師の言葉について語つて頂いた。

7つの言葉が印象に残っていると聞いて、小川白楊（亘太郎の親方、二代目小川治兵衛の長男）については「物知りで幅の広かつた従兄弟は石造品から考古学、写真などまで、よ

くができれば安全に作業ができるし、弟子たちに任せることができます。危険な仕事は人に任せずに自分でやつてきたところがあつたからです。

いろいろな道具がある中でこれはと思ったのが「ランヤード」というハーネスに取り付ける2点の支持ロープです。

長さの調節が容易で、これを幹や枝の2点に掛けると体が固定され両手で作業できるのです。今までの気合のみの登り方では攻められなかつた枝先近くに体を持つていくことができるのです。吉田先生は、「ランヤードを使うと手入れが変わる」と話していましたが、「回り大きく柔らかい手入れができるような気がしました。

全4回の講習会はロープワークが大半でした。それだけ命を守ることが基本であると何度も考えさせられました。

最新の道具や現在の法令に適したハーネスや保護具の話を現在進行形で講義して頂けたことも非常に良かったです。夕食後も先生や塾長を囲んで、夜遅くまで盛り上りました。令和2年度は実践編へとレベルアップした講習会が予定されているので楽しみです。初級編も同時に進めることなので皆さまも是非参加されてはいかがでしょうか。

(正会員 宮城県支部)

ではない、会社体制を確立した。

岩城師の特質として「庭の視点を仰角、広角水平、立体構成、宙空、地下、多彩地形などに置くことに〈関心〉を寄せ、実現に向けては長時間をかけて考えを〈醸成〉し、機を見えて誕生〈発散〉させる。その辛抱と研究心と不屈さが見事だ。加えて過去、現在、未来を見据えられる胆力をもたれることにも驚く」また「あらゆるオーダーにすぐに対応できる心と材料の準備を欠かさないこと」と不斷の心がけのよさを強調された。

●岩城隆社長の講義内容
（日本庭園協会主催）
『現代日本庭園の巨匠たちの庭を訪ねる 第1回 岩城亘太郎～その仕事を見る・知る・語る～』
日時…令和元年12月7日（土）
13時30分～15時30分
場所…TKP麹町駅前会議室及び
ホテルニューオータニ日本庭園
講師…日本庭園協会
名誉会長 龍居竹之介

岩城治兵衛の甥である岩城亘太郎。その孫に当たる岩城隆社長には、家族として過ごした素顔の岩城亘太郎について語つて頂いた。

また、岩城亘太郎が残した作品についても、社員の教育についても思ひ出とともにお話しして頂いた。

●岩城亘太郎作品現地見学会
●龍居先生講義内容
参加者数…48名
株式会社 岩城
設計部長 荒川淳良

岩城亘太郎の京都時代から東京に進出した経緯や作品の解説をして頂くと共に、耳に残った岩城師の言葉について語つて頂いた。

7つの言葉が印象に残っていると聞いて、小川白楊（亘太郎の親方、二代目小川治兵衛の長男）については「物知りで幅の広かつた従兄弟は石造品から考古学、写真などまで、よ

くができれば安全に作業ができるし、弟子たちに任せることができます。危険な仕事は人に任せずに自分でやつてきたところがあつたからです。

いろいろな道具がある中でこれはと思ったのが「ランヤード」というハーネスに取り付ける2点の支持ロープです。

長さの調節が容易で、これを幹や枝の2点に掛けると体が固定され両手で作業できるのです。今までの気合のみの登り方では攻められなかつた枝先近くに体を持つていくことができるのです。吉田先生は、「ランヤードを使うと手入れが変わる」と話していましたが、「回り大きく柔らかい手入れができるような気がしました。

全4回の講習会はロープワークが大半でした。それだけ命を守ることが基本であると何度も考えさせられました。

最新の道具や現在の法令に適したハーネスや保護具の話を現在進行形で講義して頂けたことも非常に良かったです。夕食後も先生や塾長を囲んで、夜遅くまで盛り上りました。令和2年度は実践編へとレベルアップした講習会が予定されているので楽しみです。初級編も同時に進めることなので皆さまも是非参加されてはいかがでしょうか。

(正会員 宮城県支部)

ではない、会社体制を確立した。

岩城師の特質として「庭の視点を仰角、広角水平、立体構成、宙空、地下、多彩地形などに置くことに〈関心〉を寄せ、実現に向けては長時間をかけて考えを〈醸成〉し、機を見えて誕生〈発散〉させる。その辛抱と研究心と不屈さが見事だ。加えて過去、現在、未来を見据えられる胆力をもたれることにも驚く」また「あらゆるオーダーにすぐに対応できる心と材料の準備を欠かさないこと」と不斷の心がけのよさを強調された。

●岩城隆社長の講義内容
（日本庭園協会主催）
『現代日本庭園の巨匠たちの庭を訪ねる 第1回 岩城亘太郎～その仕事を見る・知る・語る～』
日時…令和元年12月7日（土）
13時30分～15時30分
場所…TKP麹町駅前会議室及び
ホテルニューオータニ日本庭園
講師…日本庭園協会
名誉会長 龍居竹之介

岩城治兵衛の甥である岩城亘太郎。その孫に当たる岩城隆社長には、家族として過ごした素顔の岩城亘太郎について語つて頂いた。

また、岩城亘太郎が残した作品についても、社員の教育についても思ひ出とともにお話しして頂いた。

●岩城亘太郎作品現地見学会
●龍居先生講義内容
参加者数…48名
株式会社 岩城
設計部長 荒川淳良

岩城亘太郎の京都時代から東京に進出した経緯や作品の解説をして頂くと共に、耳に残った岩城師の言葉について語つて頂いた。

7つの言葉が印象に残っていると聞いて、小川白楊（亘太郎の親方、二代目小川治兵衛の長男）については「物知りで幅の広かつた従兄弟は石

造品から考古学、写真などまで、よ

くができれば安全に作業ができるし、弟子たちに任せることができます。危険な仕事は人に任せずに自分でやつてきたところがあつたからです。

いろいろな道具がある中でこれはと思ったのが「ランヤード」というハーネスに取り付ける2点の支持ロープです。

長さの調節が容易で、これを幹や枝の2点に掛けると体が固定され両手で作業できるのです。今までの気合のみの登り方では攻められなかつた枝先近くに体を持つていくことができるのです。吉田先生は、「ランヤードを使うと手入れが変わる」と話していましたが、「回り大きく柔らかい手入れができるような気がしました。

全4回の講習会はロープワークが大半でした。それだけ命を守ることが基本であると何度も考えさせられました。

最新の道具や現在の法令に適したハーネスや保護具の話を現在進行形で講義して頂けたことも非常に良かったです。夕食後も先生や塾長を囲んで、夜遅くまで盛り上りました。令和2年度は実践編へとレベルアップした講習会が予定されているので楽しみです。初級編も同時に進めることなので皆さまも是非参加されてはいかがでしょうか。

(正会員 宮城県支部)

ではない、会社体制を確立した。

岩城師の特質として「庭の視点を仰角、広角水平、立体構成、宙空、地下、多彩地形などに置くことに〈関心〉を寄せ、実現に向けては長時間をかけて考えを〈醸成〉し、機を見えて誕生〈発散〉させる。その辛抱と研究心と不屈さが見事だ。加えて過去、現在、未来を見据えられる胆力をもたれることにも驚く」また「あらゆるオーダーにすぐに対応できる心と材料の準備を欠かさないこと」と不斷の心がけのよさを強調された。

●岩城隆社長の講義内容
（日本庭園協会主催）
『現代日本庭園の巨匠たちの庭を訪ねる 第1回 岩城亘太郎～その仕事を見る・知る・語る～』
日時…令和元年12月7日（土）
13時30分～15時30分
場所…TKP麹町駅前会議室及び
ホテルニューオータニ日本庭園
講師…日本庭園協会
名誉会長 龍居竹之介

岩城治兵衛の甥である岩城亘太郎。その孫に当たる岩城隆社長には、家族として過ごした素顔の岩城亘太郎について語つて頂いた。

また、岩城亘太郎が残した作品についても、社員の教育についても思ひ出とともにお話しして頂いた。

●岩城亘太郎作品現地見学会
●龍居先生講義内容
参加者数…48名
株式会社 岩城
設計部長 荒川淳良

岩城亘太郎の京都時代から東京に進出した経緯や作品の解説をして頂くと共に、耳に残った岩城師の言葉について語つて頂いた。

7つの言葉が印象に残っていると聞いて、小川白楊（亘太郎の親方、二代目小川治兵衛の長男）については「物知りで幅の広かつた従兄弟は石

造品から考古学、写真などまで、よ

くができれば安全に作業ができるし、弟子たちに任せることができます。危険な仕事は人に任せずに自分でやつてきたところがあつたからです。

いろいろな道具がある中でこれはと思ったのが「ランヤード」というハーネスに取り付ける2点の支持ロープです。

長さの調節が容易で、これを幹や枝の2点に掛けると体が固定され両手で作業できるのです。今までの気合のみの登り方では攻められなかつた枝先近くに体を持つていくことができるのです。吉田先生は、「ランヤードを使うと手入れが変わる」と話していましたが、「回り大きく柔らかい手入れができるような気がしました。

全4回の講習会はロープワークが大半でした。それだけ命を守ることが基本であると何度も考えさせられました。

最新の道具や現在の法令に適したハーネスや保護具の話を現在進行形で講義して頂けたことも非常に良かったです。夕食後も先生や塾長を囲んで、夜遅くまで盛り上りました。令和2年度は実践編へとレベルアップした講習会が予定されているので楽しみです。初級編も同時に進めることなので皆さまも是非参加されてはいかがでしょうか。

(正会員 宮城県支部)

ではない、会社体制を確立した。

岩城師の特質として「庭の視点を仰角、広角水平、立体構成、宙空、地下、多彩地形などに置くことに〈関心〉を寄せ、実現に向けては長時間をかけて考えを〈醸成〉し、機を見えて誕生〈発散〉させる。その辛抱と研究心と不屈さが見事だ。加えて過去、現在、未来を見据えられる胆力をもたれることにも驚く」また「あらゆるオーダーにすぐに対応できる心と材料の準備を欠かさないこと」と不斷の心がけのよさを強調された。

●岩城隆社長の講義内容
（日本庭園協会主催）
『現代日本庭園の巨匠たちの庭を訪ねる 第1回 岩城亘太郎～その仕事を見る・知る・語る～』
日時…令和元年12月7日（土）
13時30分～15時30分
場所…TKP麹町駅前会議室及び
ホテルニューオータニ日本庭園
講師…日本庭園協会
名誉会長 龍居竹之介

岩城治兵衛の甥である岩城亘太郎。その孫に当たる岩城隆社長には、家族として過ごした素顔の岩城亘太郎について語つて頂いた。

また、岩城亘太郎が残した作品についても、社員の教育についても思ひ出とともにお話しして頂いた。

●岩城亘太郎作品現地見学会
●龍居先生講義内容
参加者数…48名
株式会社 岩城
設計部長 荒川淳良

岩城亘太郎の京都時代から東京に進出した経緯や作品の解説をして頂くと共に、耳に残った岩城師の言葉について語つて頂いた。

7つの言葉が印象に残っていると聞いて、小川白楊（亘太郎の親方、二代目小川治兵衛の長男）については「物知りで幅の広かつた従兄弟は石

造品から考古学、写真などまで、よ

くができれば安全に作業ができるし、弟子たちに任せることができます。危険な仕事は人に任せずに自分でやつてきたところがあつたからです。

いろいろな道具がある中でこれはと思ったのが「ランヤード」というハーネスに取り付ける2点の支持ロープです。

長さの調節が容易で、これを幹や枝の2点に掛けると体が固定され両手で作業できるのです。今までの気合のみの登り方では攻められなかつた枝先近くに体を持つていくことができるのです。吉田先生は、「ランヤードを使うと手入れが変わる」と話していましたが、「回り大きく柔らかい手入れができるような気がしました。

全4回の講習会はロープワークが大半でした。それだけ命を守ることが基本であると何度も考えさせられました。

最新の道具や現在の法令に適したハーネスや保護具の話を現在進行形で講義して頂けたことも非常に良かったです。夕食後も先生や塾長を囲んで、夜遅くまで盛り上りました。令和2年度は実践編へとレベルアップした講習会が予定されているので楽しみです。初級編も同時に進めることなので皆さまも是非参加されてはいかがでしょうか。

(正会員 宮城県支部)

ではない、会社体制を確立した。

岩城師の特質として「庭の視点を仰角、広角水平、立体構成、宙空、地下、多彩地形などに置くことに〈関心〉を寄せ、実現に向けては長時間をかけて考えを〈醸成〉し、機を見えて誕生〈発散〉させる。その辛抱と研究心と不屈さが見事だ。加えて過去、現在、未来を見据えられる胆力をもたれることにも驚く」また「あらゆるオーダーにすぐに対応できる心と材料の準備を欠かさないこと」と不斷の心が

木葉になるし

15

内田 均

学者はもつと研究を進めなければならぬ、再考せよと言われた。

本多氏は、大学院生の上原敬二氏（庭園協会発起人の一人）を呼び、相談した。そこで思ついたのが「樹幹解析法」である。大隈氏を説得する材料として、日光と代々木のスギとの年輪成長解析を図表にし、代々木のスギの方が1～2割生育が悪いことを明らかにした。

また、代々木地区の工場から発生する排煙と山手線の蒸気機関車の走行による煤煙にスギが弱いこと、乾燥しやすい武藏野台地でのスギの生育が思わしくないことなどを理由にスギ林に対することに反対した。さらに、西洋で生まれつあった植生遷移の概念を逸早く取り入れ、「境内林として最もふさわしい林相は未来永劫人手をかけなくとも成立し続ける関東平野南部の原生林即ち、カシ・シイ・クスなどの常緑闊葉樹林である」と研究者としての使命に燃えて主張し、植栽計画図と遷移系列（植栽直後の0年・50年・100年・150年）による将来像を描き、大隈氏や関係者を説得した。本多氏らは、人が手を加えなくてもドングリから自然と芽が出て若い木が育ち、世代交代するという永遠に続く森づくりを目指した。

神宮林の造営は、クロマツを上木にしたのはなぜか、が清正井戸のそばにあるのはなぜか、人物である。時の総理大臣大隈重信氏（神社奉祀の会会长）は、伊勢神宮のようにスギの樹林をつくりあげるべきだと主張した。空に向かつて真っすぐに伸びるスギは天に通じる木として祀られていたからである。本多氏は、代々木は伊勢神宮や日光などと土質が違うのでスギは育たないと主張した。大隈氏は代々木がスギに不適当というならば樹齢300年以上のスギ

し、その直下にスギ・ヒノキ・サワラなどの針葉樹を植え、スギよりも寒風に弱いクスノキ・カシ類・シイなどの常緑広葉樹をその下に植えた。その植樹方法は千葉県山武林業の手法を参考にしたようである。

本庭園協会と明治神宮は切つて切り離せない関係にある。

庭園協会の設立目的は、庭園・公園・園芸及び風致に関する研究と技術並びにこれに関する趣味の普及、及び発達を図ることである。その発端となるのは明治神宮の森造営であろう。

主な植栽樹木は、全国各地より寄せられた10万本を超す献木で賄つた。神宮周辺の土壌にはイヌツゲを岡山县林務課より1万本、台湾総督からはクスノキの苗木を5千本頂いたといふ。その際、献木お断りの木として庭木仕立のもの、園芸品種、花木・果樹、外国産樹木類を挙げている。そういうえば、参道にはこのような樹木は見当たらない。

本多氏から神宮境内造営工事の現場監督として3年間派遣された上原氏は、計画上支障となる樹木の伐採・移植・根回しなどの施工や記録を学位論文『神社林の研究』『神社境内の設計』『樹木根廻運搬並移植法』としてまとめ上げた。これらは現在の公共造園の歩掛かりや植栽の技術指針となっている。

南参道神橋下の水流の石組には490トンもの筑波石が用いられて、最初、石組担当の職員は、最高最良の伊予青石を用いるべきだと主張した。しかし、上原氏は参拝者の目



神橋下の筑波石

にふれる箇所でもなく、斜面の土留用の石組であり、予算もないことから高価な石でなくともよいと、周囲の環境と調和する筑波石の採用を提言した。これをきっかけに爆発的な筑波石ブームが起こっている。

造

宮

100年後の現在、本多・上

原氏らのつくった森には、都市部でありますながらオオタカなどの森林性の野鳥やタヌキなどの動物が生息しており、神社林としての役割のほか、生物多様性の保全がなされている貴重な場所となっている。その地で、毎年庭園協会の総会が開かれている。当協会の先人たちがつくり上げた所縁の地での集まりには、強いご縁を感じる。

今年は東京でオリンピックが開催され、隣接する国立代々木競技場も会場となる。明治神宮の森にも多くの人に足を運んでほしい。